

ダルニー通信

58
2010
夏号



ラオス・カンボジアの奨学生報告(P 3、P 4)

- 三井住友海上火災保険株式会社のチャリティコンサート(P 8)
- 日本建築学会賞受賞記事(P 8)



一般財団法人
民際センター

今年1月にカリブ海の島国ハイチで起きた地震による死亡者は推定約20万人とされています。地震のマグニチュードは7.0。ハイチの人口は約1,000万人なので、マグニチュード7.0程度の地震で国民の2%が死亡したことになります。翌2月末に起こったチリの地震はマグニチュード8.8でした。政府の発表による死亡者数は二転三転しましたが、数百人規模のようです(チリの人口は約1,650万人)。もう1つ例をあげると、今年4月に中国青海省で起こった地震はマグニチュード7.1でしたが、死亡者数は約2,000人でした。ハイチでは、なぜマグニチュード7の地震で20万人もの国民が亡くなったのでしょうか？

主な原因として、インフラの脆弱さが挙げられます。病院が倒壊し(国会も大統領府も倒壊)、もともと脆弱だった道路や港などのインフラが壊滅的な打撃を受けました。国連の食糧支援機関であるWFP(国連世界食糧計画)は、地震が起こった直後からハイチに入り、食料を被災者に配っていますが、シーラン事務局長は「WFPの歴史の中で最も難しい支援活動」と述べていました。

ハイチは1804年に中南米で最初に独立し、世界初の黒人共和国になりました。しかし、現在は世界最貧国の1つで、1人当たりGDPは560ドルに過ぎません(ラオス860ドル)。栄光ある歴史にもかかわらず、世界最貧国の1つになってしまった理由の1つは、政治・経済が不安定で、国民の生活が顧みられなかったことが挙げられます。20世紀をざっと見るだけでも、19年間にわたる米軍の軍事占領や長期独裁政権、さらに軍部のクーデターも頻繁に起こりました。そして、国民の生活が顧みられなかった結果、教育を受けられない

児童が多く、ユニセフの統計(2000-2006)では学齢期を対象とした中学純出席率が男子18%、女子21%です(ラオスは各40%、33%)。教育水準が低い理由は、フランスの植民地政策に原因があると指摘する見方もあります。アフリカから連行した黒人奴隷に砂糖や綿花を栽培

させるだけで、彼らのために学校を作らなかった

たからです(まともな病院も道路

路も作りませんでした)。ブドゥー教がハイチに広く流布しているのは、低い教育水準の表れかもしれません。そして、この愚民政策は同じくフランスの植民地だったラオスでも行われました。

ハイチ地震の被害、なぜ死者20万人も？ — 植民地政策の爪痕、ハイチとラオスの違い —

● 教育の改善進むラオス、しかし格差は拡大か

ラオスもカンボジアも19世紀末からフランスの植民地でした。特にラオスは人口が少なく、資源も(当時は)発見されず、しかも内陸国だったので、ハイチ同様、学校や病院、道路や橋などのインフラが建設されず、1950年代になっても高校は首都ビエンチャンに1つしかありませんでした。小学校は地方都市にはありましたが、小学校4年からフランス語教育に切り替わるため、小学校3年で学校を退学してしまう児童が多かったようです。数十年にわたる内戦を経て1975年に独立した後も、国内が疲弊していたため、教育や保健衛生施設等のインフラに資金を回す余裕はありませんでした。しかし、21世紀に入って中南部に鉱山資源が発見され、2006年には貿易収支がわずかながら黒字に転換して経済成長が軌道に乗ってきました。それとともにインフラが少しずつ整備され、教育に対する政策に力を入れ始めました。ラオス教育省の統計では、学齢期の6歳で小学校に入学する割合が2000年の59%から2007年には76.1%に上昇しました。5年生まで教えられない不完全校数も2000年の61%から2007年には52%まで減少しました。

しかし、経済成長はまず都市部で始まり、都市部と農村部の経済格差が拡大します。学齢児童の小学校入学率は76.1%と書きましたが、都市部は9割近いにもかかわらず、例えば、ダルニー奨学金対象県のセーコーン県は5割程度にとどまっています。この格差が、IT化とグローバル経済の中で一層拡大され、都市部ではインターネットが流行り、農村部では電気もないというアンバランスを生み出します。このアンバランスをできる限り小さくするために、子どもたちが基礎教育をしっかりと受けることがまず重要であると思われる。



ラオスの小学校

ラオスで奨学金を申請している2人の子どもの生活

ナタン村は人口573人の小さな村で、村人の多くは米をつくり、それを食べています。主な現金収入は、森で採れる野菜類や木炭にする木材等です。しかし村の総収入は年間約40万円しかありません。その村で、ダルニー奨学金を申し込んでいる小2の奨学生を紹介します。

12歳のポーンサワンは、5人兄弟の3番目。ラオス・カムアン県にある小学校の2年生です。お父さんとお母さんは米農家ですが、収穫量は年600キロしかなく、家族が十分に食べていきません。それで、両親は雇われ仕事をしたり、川や森で採った魚や野菜を売ったりして得た収入でお米などを購入しますが、現金収入は年5,600円しかありません。働く両親に代わってポーンサワンは毎朝、水を汲み、ご飯の準備をします。両親は彼に学校の先生か看護師になってもらいたいと思っていますが、ポーンサワンの夢は兵士になることです。



家の前で



水を汲むポーンサワン

現金収入は年5、600円

働く両親に代わって、水汲み等の家事



学校で勉強するノイ



家で皿洗いをするノイ

ノイは7歳で、ラオス・カムアン県にある小学校の2年生です。3人姉妹の末っ子。勉強にはとても熱心で、めったに学校を休みません。得意な科目は国語。他の科目に比べ、やや理解しやすいように感じているからです。また、休み時間には友達とよくゴム縄飛びをして遊びます。家では水くみ、皿洗い、ご飯の準備をします。両親が田んぼから得られるお米の収穫量では家族が満足に食べていくことはできないので、森で樹脂やラタンの材料等を採って現金収入にしていますが、年収は4,500円程度しかありません。ノイの夢は先生になることで、両親もそれを希望しています。

奨学金を申請している、カンボジアの少年(小3)の日常

コンポンチュナン県の小学校に通うチュン(10歳)は小学校3年生。継ぎ接ぎだらけの家で、両親ときょうだい3人の6人が暮らしています。両親は7メートル×100メートルの田んぼを持っていますが、そこから取れるお米は家族が食べる2カ月分の収穫しかありません。それで、お父さんは森で燃料に使う木を刈ったり、川で魚を獲ったりします。お母さんは収穫期に田んぼで日雇い労働をして、1日約60円のお金を稼ぎますが、収穫期が終わると現金収入はなくなります。家には石鹸やシャンプーはありません。



食べ物を探すチュン



家の前に立つチュン

経済的に貧しい中、大きな夢をもつチュン

チュンの日課の1つは、家から150メートル先にある井戸まで水を汲みに行くことです。しばしば、お父さんと一緒に森や川に出かけて手伝いをします。時には1人で食料を探しに行くこともあります。

チュンはぼろぼろの制服を着て学校に通います。サンダルはきょうだいでも共有しているので、時々、裸足で学校に行くこともあります。質問にはきはき答えるチュンの夢は、奨学金をもらって勉強を続け、医者になることです。

研修旅行について

かねてより研修旅行の在り方を検討してまいりましたが、従来の定期研修旅行(5・11月タイ、10月ラオス)は中止し、少し内容を変えて、参加しやすく、より楽しめるタイプのボランティアツアーを(株)エイチ・アイ・エスと実施することになりました。

観光とともに、現地の大学生との交流や、奨学生のいる村でのボランティア活動などを行う予定です。また、村での家庭訪問を行います。宿泊は現地のホテルまたはゲストハウスとなります。この旅行はドナーでない方もご参加できますので、お誘いあわせのうえ多くの方々にご参加いただければと考えております。

第1回目は、9月にラオス旅行を予定しており、5月下旬よりHP、メールマガジンでお知らせいたします。お問い合わせは事務局までお電話ください。(TEL:03-5292-3260)

【書き損じはがき支援校の活動レポート】



善意の輪の広がりに生徒会は驚き、喜び、そして達成感

岡山市立富山中学校 教諭 生徒会担当 安東美香

学校へ行きたいと願う世界の子どもたちを、奨学金で支援する。平和を築く活動として、岡山市立富山中学校では、今年も一月に年賀状などの書き損じはがきを集める活動を行った。校内や地域での呼びかけのため、手作りのポスターやポストを作成した。地域の保育園に置くポストには、子どもの目につくキャラクターを描くなどの工夫をした。年配の方へもお知らせしたくて、地域の回覧板や公民館に広報紙をのせていただいた。このような活動を進めるうちに、地元新聞社から取材を受けたり、地元FMラジオ局で本校の活動が紹介されたりと、周囲の反応の大きさは生徒の予想をはるかに上回るものだった。

善意の輪はみるみる広がり、校内・地域から多くはがきが寄せられた。また、新聞やラジオの報道を見たり聞いたりして郵送して下さる方も多く、あたたかいメッセージ付きのはがきの束が続々と寄せられた。なかには、匿名で真新しいはがきの束を送ってくださった方や、病室からたった1枚のはがきを送ってくださった方もあり、生徒は深い感動を得ることができた。

結果として、今年度はなんと4,025枚ものはがきが集まった。昨年の1.5倍の枚数で、換金すると4人の子どもが3年間学校へ通うことができるものだった。目標にしていた枚数を大きく上回り、生徒達は、驚きとともに嬉しさが込み上げ達成感に満ちあふれた表情をしていた。一人では決して得ることのできない感動の渦に包まれていた。多くの方からいただいた優しさや励ましに、感謝の気持ちでいっぱいになった。生徒会長は、最後にこのように言った。「多くの方の『暖かい心』が集まると、大きな力になることを改めて知り、今後の生徒会活動も誇りを持ってがんばっていきたくて、今、決意しています」

踏み出した一歩に続く未来は、力強く学び深いものとなった。学びの出会いをいただいたことに、今、深く感謝している。

村で運動会を仕掛けて、 「おらが村」意識を育てませんか

私の夢 — カンボジアの地域おこし

民際センター理事長 秋尾晃正

ポルボト時代を生きるため、村々で隣人の密告が横行しました。その結果、現在でも村々は全般的に一体感がなく「俺が村」意識は気薄です。また、フンセン体制の現在、選挙でどの政党を選ぶかで村民の色分けが決まってしまうため、村人は村全体を考える意識や協力し合う関係も弱いと言えます。若者が団結する風土もありません。

そこで、村人が集まって一緒に楽しく活動する機会があれば、それが「俺が村意識」や「団結心」を育むきっかけになるのではないのでしょうか — というのが、カンボジア事務局長チャンディの提案です。例えば、小学校の子どもたちに「30人31脚」（2人3脚競技の拡大版）を教えたり、村と村が競争する運動会を開催したりすれば、協働で何かをする意識が育つのではないだろうか、彼は考えたわけです。

さて、私は夢想します。このような活動を経験した方に手を挙げていただき、ボランティアとして現地に飛んで仕掛け人になってくださる方がいたら、と。カンボジアでの滞在費等は弊センターで持ちますが、プノンペンまでの交通費は自費負担で。奨学金提供者であれば、その学校や村でも歓迎されるでしょう。運動会等を実施したPTA関連者や町の教育委員会の方が相応しいかもしれません。可能なら一過性でなく定着し、他の地域でも普及するような気持ちで、気長にやってみたいという方々が望ましいかもしれません。

「急がば回れ」

ラオス教育改善の核になる 人材の育成事業にご支援を！

—ラオス人教師修士留学事業(TTM事業)—



ビエンチャンで行われたオリエンテーションの風景

●教育の質的向上には

最貧国とされるラオスの教育を充実させるためには、その量と質の両方を向上させることが必要です。奨学金事業では教育の量の向上を目指していますが、質は目に見えないものだけに向上させることは容易なことではありません。過去数十年にわたり質の向上のために、世界銀行、アジア開発銀行等の国際機関や各国政府の援助、また世界の様々なNGO団体が、ラオス全域で教師訓練を実施してきました。にもかかわらず目に見える成果が現れていないのはなぜなのでしょう。その背景には現場の先生を教える教員指導教師自体の質と教授法の問題があります。

●ラオスの実情—教科書・教師指導書の作成は

ラオスの教育の実情として1例を見てみましょう。教育省の予算は限られ、教科書の不足に加え、その内容にも問題があります。海外からの支援などで教科書および教師用指導書のための予算が確保できた場合、ラオス教育省は急遽、作成にとりかかります。ラオス国立教育研究所 (NRIES) には約150名のスタッフが勤務していますが、年間予算は僅か1,500万円位で、教科書担当の課員は9名しかいません。年度内に完成しなければならない場合が多く、そのため全国から教師が動員されて短期間で作られるため、教科書の質にも問題が生じます。また、教科書はラオスすべての県の子どもに無料配布されるのではなく、限定された県の学校に配布され、数年間は同じ教科書が使用されるという状況です。配布部数について教育省から公表された数字がありますが、実際には配布された学校でも使用する内に教科書が少なくなっているのが現状です。現在、小学校1年から5年、中学1年から4年までの各教科書と指導書は作られています。しかし高校用は、教科書のみで指導書はまだ作られていません。また、既存の教科書や指導書も内容や質に問題があります。

●費用対効果を重視したTTM事業

前述したようにラオスではこれまで膨大な手間と費用を掛けて教師訓練が実施されてきましたが、私たちは費用対効果を重視した上で、効果的且つ均一化された教授法を確立することこそが教育の質を向上させるための最優先課題であると捉えています。そのためには質の良い教科書を整備し、現状の教師能力に十分配慮した教師用指導書を作成することが不可欠であると考え、それらに携わる教育のス

ペシャリストを育成するTTM事業を実施しています。事業の具体的プロセスとしては、ラオス全土の公募により選考された有能な人材が本事業の奨学金を得てタイ国立コーンケン大学教育学部修士課程に留学して修士号を取得します。卒業後にはラオスの教育機関で教師用指導書の作成などに携わり、ラオスの教育水準の向上を担います。

●人材の育成と蓄積、さらに活用に向けて

今年入学の3名を含め、現時点で19名の修士取得者の輩出が予定されています。蓄積されてきたこれらコーンケン大学の修士取得者たち、また彼らが持つ教育人脈はラオスの教育界でますます存在感を強めています。本事業では次の段階として、卒業生たちが将来所属して活躍する新たな組織、「教育指導学会」を設立する構想に向けて動きだしました。同学会設立のための教育省との会議もすでに回を重ね、概ね合意に達する段階にきました。

国際水準の教育をラオスで実現することを目標に、更なる人材の育成と蓄積が必要です。引き続き皆さまからのご理解とご支援をお願いします。



今年、コーンケン大学修士課程に入学を果たした3名の合格者

2011年度コーンケン大学大学院修士課程に 入学する第7期生へのご支援をお願いします

第7期生への奨学金（学費及び生活費等）の寄付金額は、年間（1回）80万円で、修士課程入学前の準備コースから修士号取得までの3年間を継続してのご支援となります。（総額240万円）。詳しい資料のご請求は事務局（担当：横山）まで。2011年度資料請求の締め切りは2010年8月末日（火）です。

季節の変わり目で風邪を患う生徒が急増

昨年10月から11月にかけて、すなわち、雨期から乾季に代わる時期に、7校（最終学年の5年まで教えられない不完全校を入れると14校）で行われた健康診断では、受診者1,584名中510名が「異常あり」と診断され、薬を投与されました。風邪336名、肺炎59名、扁桃腺炎49名などと報告されています。季節の変わり目に子どもたちは風邪をひきやすいため、それがさまざまな症状となって表れたようです。もし健康診断がなければ、症状が重くなるまで、そのままほったらかしにされたかもしれません。しかし、検診で適切な薬が投与されたので、軽い段階で治すことができました。

さらに、1年を通して病気や怪我をして病院で治療を受け、その治療代の一部の補てんを受けた生徒は2008年度18名から2009年度44名に増えました。病院で治療を受けたら、補てんを受けられる仕組みが浸透してきました。

ブーンライ保健衛生事業では、会費として生徒は月500キップ（約6円）を支払って入会することにな



っていますが、一部の学校では入会率が下がっていました。そこで、2009年度中にラオス事務局スタッフがカムアン県とセーコーン県の各県で2校を選び、先生、村・郡・県の関係者ら40名を集めて同事業に関する3日間のセミナーを開催しました。また、事務局スタッフが学校を訪れ、再度、事業の内容・意義を説明しました。その結果、入会率が大幅に上昇しました。今後も事業の評価とともに広報活動や予防セミナーなど活発に展開する予定です。

ラオス 図書プロジェクト

読書や授業に活用される図書

4月初め、米国で発売が開始されたアップル社のiPadは、初日だけで30万台が売れ、同社電子書店からは25万冊を超える電子書籍がダウンロードされたそうです。読書の形態が大きく様変わりしそうな今この時期に、ラオスではいまだに教科書以外の本に触れたこともないたくさん子どもたちがいるという現実があります。

民際センターでは、皆さまからの寄付で、本がほとんど無いラオスの学校に図書のセットを寄贈する図書事業を展開しています。

今年3月29日、初めて図書セットが贈られたサラワン県のスーシー小学校、ケオ校長は、「図書セットを寄贈していただき本当に感謝しています。子どもたちはさっそく本を手にとりて大喜びです。私たちはこの図書セットを授業や勉強に有効に活用することをお約束します」と手紙で知らせてくれました。ラオスには本が不足している学校がまだまだ多く存在します。図書事業に皆さまのご支援をお願いします。



届いたばかりの本を熱心に読む
スーシー小学校の児童たち

【お問い合わせ】 プロジェクトの資料を用意しております。ご関心のある方は、民際センター事務局までお問い合わせください。

チャリティコンサート15回目で、支援する奨学生が200人を突破!

— 観客数も260人で過去最高 —

三井住友海上 光 富 聖



去る2月10日、三井住友海上駿河台ビルの1F大ホールにおきまして、MSIGスマイルハートクラブと三井住友海上グループ軽音楽部共催による「第15回バレンタインチャリティコンサート」を開催しました。

このイベントは14年間続いており、これまで186人の子供たちを支援してきた歴史と実績があるイベントといえます。昨年は、国内勤務者はもちろんのこと、海外勤務者やOBまで含んだ有志の協力により過去最高の93万円をお届けすることができ、グループ社員・OBの意識の高まりを肌で感じた年でありました。

さて、翻ってこの第15回の目標は「奨学生200人突破！」そして「会場を観客で満杯にすること!!」。何と言ってもコンサートですから、募金だけでなく「満員のホールで歌い、演奏する」…。これこそが究極の目標で、そのための目玉企画として、今回は「三井住友海上管弦楽団」とチアリーディングチーム「ドルフィンズ」とのコラボに成功し、管楽器・弦楽器が加わった豪華な演奏と楽しいダンスユニットという強力な「武器」で、最高のパフォーマンスを見せることができました。その結果は…観客数過去最高の260人! 当然満杯の大盛り上がりっ! \(\wedge\wedge)/\) そうそう、大事なことを忘れるところでした。今回集めた募金額は99万円の新記録! 奨学生は219人に!! (\wedge\wedge)v。いいこと尽くめの第15回でした。



ラオスの学校建設に対し、建築家の加藤隆久氏と民際センターが日本建築学会賞を共同受賞

ラオスの学校建設にボランティア専門家として参加されている建築家の加藤隆久氏および一般財団法人民際センターは、日本の建築界で最も権威と伝統がある社団法人日本建築学会（1886年/明治19年創立）より、共同で2010年日本建築学会賞（業績）を受賞しました。

「ラオスの教育援助活動の一環としての小学校の設計と普及」が表彰業績の名称です。

加藤隆久氏はボランティアとして、小学校の設計・現場管理を15年間継続していること、設計した校舎が厳しい現地の自然環境と建築環境に配慮されていることなどが高く評価され、民際センターは、多くの方々の支援のもと、初等教育の基盤整備としての小学校建設を「草の根」の国際交流を通して実現し、現在までに26校を竣工したことなどが評価されました。



(株)アライドコーポレーションの寄付活動の取り組みについて

2004年4月より、弊社の製品「タイの台所」を協賛品として提供し、民際センターがイベントなどで販売した売り上げを全額、ダルニー奨学金としてタイの恵まれない子どもたちに寄付させて頂いております。これは本当の意味で、タイと日本の将来によりよい関係が築けたらと願っているからです。弊社の製品の売り上げを通し、タイの社会に貢献出来たら、大変嬉しく思っております。

【Information】

●タイの台所新聞

もっと多くの方に、タイを知ってもらえる様、現地の生産者からのタイ食材紹介や、本場の屋台情報など、タイを身近に感じてもらえる情報を毎月お届けしています。

●「タイの台所新聞」とは？

- 1) 読んでるだけで旅行気分が味わえる、現地で取材したタイの最新情報をお届け
- 2) タイ料理研究家（氏家アマラー昭子先生）による、普段の食事からパーティーメニューまで大活躍のタイ料理レシピをたっぷりご紹介
- 3) タイ旅行時に役立つ、マナーや現地のオススメ屋台のご紹介
発行は毎月1日。アライドコーポレーションHP (<http://www.allied-thai.co.jp/>) にて年間購読のお申し込みを受け付けております。



●タイの台所ファン

アライドコーポレーションHPや「タイの台所新聞」と連動し、より多くの方がタイ料理をもっと楽しんでもらえる様発足された、年会費制のファンクラブです。

プレミアム会員（3,000円）とベーシック会員（1,800円）の2パターンをご用意しております。会員の種類に応じて特典内容が異なります。

●ベーシック会員 年会費：1,800円

《特典内容》

1部150円の『タイの台所新聞』を毎月1回お届け
(送料無料、申し込み翌月より1年間)

●プレミアム会員 年会費：3,000円

《特典内容》

- 1) タイの台所オンラインショップで使える、3,000円分のお買い物クーポン贈呈
- 2) 1部150円の『タイの台所新聞』を毎月1回お届け（送料無料、申し込み翌月より1年間）
- 3) タイの台所オンラインショップにて、一般価格より10%OFFにてお買い物が可能

※ベーシック会員より+1,200円（計3,000円）のお支払いで、トータル4,800円分の特典が受けられる、よりお得なコースです！



お申し込み方法

タイの台所ファン会員募集ページ (<http://www.allied-thai.co.jp/fan>) よりお申し込みいただけます。

お問い合わせ先 (株)アライドコーポレーション 販売促進部 TEL:045-232-1717 FAX:045-232-1718

民際センターの ホームページが **パワーアップ**

- より **使いやすい**
- より **解りやすく**
- より **見やすく**
- そして **便利に!!**

アドレス **www.minsai.org**

画像が大きく
スライドショーでページへリンク



文字サイズも選べて
ボタンも大きい

続々と更新される
最新情報

メールマガジン 大好評配信中!!

奨学生の証書を入れる
木製の額縁はいかがですか？

価格は、税・送料込みで3,014円です。
売上げの20%はダルニー奨学金になります。
申し込み先：弊センター 03-5292-3260
info@minsai.org (担当：富田)



東京マダム コレクション

美しさを追求し、美しくありたいと願う

四十代なかば以上の女性の美の祭典

「東京マダムコレクション」が、

2010年9月、東京ミッドタウンを会場に開かれます。

真の美しさとは、外見だけでなく内面も輝くこと。

中身の美しさを備えた女性が集い、美しさをさらに追求する、

大人の女性のためのまったく新しい美の祭典です。

「東京マダムコレクション」は、

大人の女性の美を集結させて、

日本に明るい話題を提供します。



■開催：2010年9月18日(土)・19日(日)

■会場：東京ミッドタウン

■主催：東京マダムコレクション実行委員会

■企画・運営：株式会社シニアコミュニケーション

■URL <http://t-madam.jp>

■お問い合わせ：03-5414-6870

■内容：45歳以上のモデル・女優によるファッションショー
マダム日本コンテスト全国大会
東京マダムセレクトボーイコンテスト全国大会
ライブ・トークショー 他

TMC
TOKYO MADAM COLLECTION
2010

「東京マダムコレクション」は
ガルニー奨学金を応援しています。

事務局活用 リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様の
お問い合わせやご要望にお応えしています。ご利用につきましては、
下のとおり必要なものを同封の上ご請求ください。

● 地域で奨学金を広める活動をしたい ●

- ① 書き損じはがき・未使用テレカの収集
- ② 使用済みインクカートリッジの収集
- ③ パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④ 不要な本を集めて送る
- ⑤ 募金箱を設置したい

①～⑤：80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください。折り返し、該当する資料を送付します。②はポスター、⑤は申込用紙も同封します。①、④はメールでもお問い合わせできます。①については、箱に貼るエコ型はがき・テレカ収集箱作成セットも用意しておりますので、ご希望の方は枚数をお知らせください。

● 奨学生や現地のビデオを見たい ●

広報ビデオ(13分)やNHKで放映された番組「元奨学生感謝の来日」(20分)など。また、パネルを貸し出すこともできます。(送料実費)

● 個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい ●

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3～5月と10月、学校はお休みです)。

● 奨学金の説明を聞きたい ●

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

● タイの奨学生と文通したい ●

- ① 手紙の翻訳
- ② タイの切手購入

①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
②：タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

● 事務局でボランティアをしたい ●

PC入力、DTP・WEB制作の経験者、事務作業など。電話で担当、関口までお問い合わせください。

● 毎年忘れずに送金したい ●

お申し込みいただければ、自動振込用紙(ゆうちょ銀行)を無料で送付します(タイのみ)。

編集後記：今回は5月から入社した女性新人職員を紹介します。

●5月から職員となりました高橋布美子です。前職では、重工メーカーにて原価計算や資金管理などを担当してきました。学生時代に東アジアの開発経済学を学んだことをきっかけに、アジアの国々、そこに暮らす人々の現状について興味を持ちました。いつか、アジアで暮らす人々が厳しい生活から抜け出し、未来を開くために手助けとなるように仕事をするを目標してきました。このたび、民際センターの職員として、タイ、ラオス、カンボジアの子どもたちの教育支援にかかわることとなり、とてもうれしく思っています。これまでの経験を活かしながら、早く仕事に慣れるよう頑張ってまいりますので、よろしく願いいたします。



一般財団法人
民際センター

ダルニー通信 第58号 2010年6月1日発行 発行人：秋尾晃正
一般財団法人民際センター 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町518 司ビル301号
TEL: 03-5292-3260 FAX: 03-5292-3510
Eメール: info@minsai.org ホームページ: <http://www.minsai.org/>
振替口座：00150-0-57664
表紙：ラオス カムアン県 撮影 関口 愛樹

— 紙面レイアウト協力 —

吉田シャショク 福岡県大牟田市小浜町1-5-17 ☎0944-51-8604